

2024年4月4日
日本船主協会企画部広報室

海運の重要性を学校教育の場で
～北海道と大分県の中学生を対象にオンラインで海事講座を実施～

当協会は、日本の暮らしと産業を支える海運をはじめとする海事産業の重要性を学校教育において取り上げていただくよう、船舶・海事施設等の見学会、出前授業への協力や各種資料の提供など広報活動を実施しています。

今般、日本海事広報協会および北海道海事広報協会と協力し、北海道紋別市立渚滑中学校（渚滑中）の2年生10名を対象とする砕氷船「ガリニコ号ⅢIMERU」の体験乗船（2/22(木)）を支援するとともに、渚滑中の1～2年生25名と大分県佐伯市立本匠中学校（本匠中）の1～3年生10名を対象に、海運についての説明をオンラインで実施しましたので、その模様をお知らせします。なお、今回の説明は、体験乗船に関する報告を含む渚滑中と本匠中のオンライン交流会（3/8(金)）の機会を捉えて実施しました。



体験乗船の様子



説明では、まず、両校が紋別市の流氷ツアーで活躍する砕氷船「ガリニコ号ⅢIMERU」が佐伯市で建造されたことをきっかけに交流を図りながら海事産業の学習を実施してきたことを振り返ったうえで、海運が生活に必要なものの大部分と密接に係わっていることを、国内と国外の海上輸送について、夫々フェリーとコンテナ船を例に紹介しました。

また、当協会の説明後に行われたオンライン交流会では、渚滑中から砕氷船による体験乗船について報告がなされた他、本匠中の生徒からは社会科見学で造船所を訪問した経験について紹介がありました。



オンライン交流会の様子

当協会は、今後も海事関連諸団体などと連携しながら、海事産業をより教育に取り上げていただけるよう広報活動に注力してまいります。

以上